

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の皆様と積極的に交流を図るという事業所の理念を具体的に実践している。地域の夏祭り、文化祭、保育園を訪問、地域のコーラスグループの来館を通じ地域の一人としての自覚が生まれ地域とのつながりを大切にしている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝礼時、運営者・管理者・職員が集まって理念の唱和を行い、理念の共有をし、実践できるよう日々取り組んでいる。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム内に理念を掲示し、運営推進会議でも理念を伝える。地域の行事に参加したときの利用者の様子を家族に紹介したり、地域の方々や家族を招いて行事を行っている。定期的に継続して行っている中で浸透してきている。		家族や地域の方々に、より理解して頂けるよう来館の折りなどコミュニケーションをより多くとるようにしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩に出掛けた時、ゴミ出しや施設周りの掃除の時など近所の方と時節の挨拶など交わしている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の夏祭り、会館オープニングセレモニー、文化祭などに参加。また当ホームの夏祭り、クリスマス会、避難訓練などにも参加して頂いている。保育園とは敬老の日に来館して頂き楽しい歌や踊りを楽しませてもらい、ホームからも保育園を訪問しお手玉をプレゼントして交流を図っている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	グループホームの存在が認知症という病について地域の方々への関心、理解に繋がっていると思われる。また運営推進会議出席者へ認知症・新型インフルエンザ・咳エチケット・手洗いなど情報を発信している。		今後も意識して、情報を発信していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>外部からの指摘も大切にし、指摘された内容をよく反省、検討のうえ次につないでいくよう取り組んでいる。</p>	<p>職員全員で共有するための方法を考え実践していきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1度運営推進会議を開き、行事や利用者の状況を報告し地域の方々や市役所からの質問やアドバイス等を頂き、サービス向上に活かしている。</p>	<p>定期的開催され、地域との連携に役立っている。利用者の参加も実現させたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に北広島市役所より出席頂いている。その他北広島市役所の会議室でグループホーム連絡会を3ヶ月に一回行っている。地域のグループホーム管理者や介護支援専門員、北広島市役所の担当職員の意見交流がありサービスの向上に取り組んでいる。</p>	<p>グループホーム連絡会への参加を継続する。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、成年後見人制度を利用されている方がおり、後見人との連絡調整、ケアプランの送付日常生活の報告、健康上のことなど報告相談している。</p>	<p>権利擁護事業や成年後見人制度について学びを継続して行う。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>月一回の会議の中で高齢者の虐待について内容を学び利用者の自宅や事業者内での虐待を見逃すことのないよう注意し、防止に努めている。利用者の日頃の精神状態や皮膚の状態などからも判断できるようよく観察を行って申し送り職員間でも話し合っている。</p>	<p>虐待が起こらないよう、また見過ごされることのないようにする。スタッフのストレスにも注意を払い、何が虐待にあたるのかの学習も続けていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約を結ぶ際には、相談受付時より家族や本人の不安が軽減できるようにサービス内容、料金など詳細に説明を行い、入居申し込み時には契約の内容を管理者が文書により説明し理解、納得のうえ入所して頂くようにしている。</p>	<p>契約に至るまでの十分な説明が職員全員できるようにする。グループホームについて、より深い勉強をしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者が不満や苦情の言いやすい雰囲気作りに努めている。苦情などは話を充分聞くように職員が対応し、管理者に報告して対応している。</p>		<p>入居者の思いを理解し解決に取り組んで生きたい。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>家族が訪問された際、日常の様子、利用者の健康状態や精神状態など報告し、ケアプラン更新時にはその内容や取り組み、本人の暮らしぶりについて説明している。定期的にお便りを発信しホームの様子職員の異動や行事などについて報告している。遠方の方は電話連絡を取っている。</p>		<p>定期的に家族会を継続していく。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置して自由に意見を出せる環境を整えている。夏祭り時に家族会を開き歓談の時を持ち、出された意見を運営に活かしている。ケアプラン更新時家族から意見を聞き運営に反映している。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回の定期的な会議、年に数回面談を行って職員の意見、提案を聞く機会を持っている。</p>		<p>定期的に面談をし職員の提案を聞き業務の改善が出来るところはより良くしていく。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の受診や入退院等緊急時な場合に備え、必要な人材が確保できるように管理者が配慮、調整を行っている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>馴染みの環境が保てるよう努力をしており、利用者の不安を最小限にするよう心がけている。職員が退職する場合、30日前に申請する様にし、利用者への配慮を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新採用の職員については認知症についての研修を受け、法人内外の研修を受ける機会を持っている。レベルに応じて、職員を育成できるように、研修を受けるための情報提供や資格取得の勉強や相談に乗り、働きながらトレーニング出来るようサポートを行っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム連絡会を通じ情報交換、勉強会を行い、サービスの向上のためにとりくんでいる。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の仕事上わからないことや悩みなど聞くようにし、有給休暇などの活用でリフレッシュしてもらうよう配慮している。</p>	<p>リフレッシュや職員間の連携のために職員の行事を考えていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>フロア会議などの場を用い、事例検討会、ヒヤリハット、転倒事故防止、認知症についてなど個々について勉強会を行っている。外部の研修も受けている。</p>	<p>研修や講習会の情報提供をおこなっていき、レベルアップの意欲を高めていきたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談を受けた当初から、本人の困っていること、不安に思っていること、ニーズなど本人の立場になって聴き受け止めるように努めている。</p>	<p>相談を受ける側の雰囲気作り、カウンセリング力を高めていきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前にしっかり説明を行い、納得し不安を取り除いてから入居して頂く。また入居後の様子を常に連絡し、不安なことには傾聴、受容の姿勢をとっている。</p>	<p>相談技術の向上を目指し、家族と連絡を密に取り、信頼関係を築いていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	今望まれていること、必要とすること、必要とすることを支援サービスを通して選択できるよう、本人や家族に伝えている。		コミュニケーション力をつけ、ニーズの優先順位をつけ対応していく能力を高めていきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には本人に見学してもらい、納得して頂く。また、本人の価値観や好みを本人や家族から伺い、その人らしさを把握し、入居後は常に声かけをし安心して頂く。		他の入居者とも馴染んでいけるよう座る場所各人個性に配慮する。時には職員も介入し雰囲気作りに努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	長い人生を歩まれた先輩として尊敬の念を持ってケアに当たる。一緒に食事作りを行って知恵を頂いたり、得意なことを披露して頂いて楽しみを分かち合い、心が通い合うように努めている。		一緒にいる時間を大切にし、利用者から話を聞くゆとりを持ち、心が癒され、支え合う関係を持ちたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月お便りを発行しホーム内の生活状況、変化などを伝えている。また、必要に応じて電話や面会時に通知している。月行事なども周知し、気軽に参加できる呼びかけを行っている。一緒に楽しんで頂けるよう支援している。		入居者を中心に家族と職員が時間を共有し、支えていくことを大切にしたい。家族から信頼され、何でも相談してもらえる関係を築きたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの生活歴を尊重し、家族の大切さを話し、家族と支え合っていけるよう支援している。		職員の力量に合わせて担当制を取り入れ、責任を持って家族と利用者を支えて生きたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会者への面会簿記入への理解を求め把握に努めている。また、家族の協力の下、お墓参り等に出掛けられるように支援している。		家族との関係を良好にたもつことができるように近況報告を行い、利用者と家族の関係が切れないようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事時、みんなでテレビを観ているときレクリエーション等に職員が介入し、入居者同士お互いにコミュニケーションがとれるよう、またお互いを思いやれるよう、配慮、声かけを行っている。		利用者と一緒に出来ることを増やし、お互い支え合って暮らしていることが利用者を感じてもらえるようにしたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	虹ヶ丘便りや写真などを送り、連絡をしてその後のつき合いを大切にしている。職員は関わりを持ってないが管理者は必要時連絡を取ったり、お見舞いに行ったり、葬儀に参列したりしている。		必要に応じて関係を維持していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人の好きなことはアクティビティに取り入れ、好きな音楽を聴いたり、好きなこと、その人のペースを大切にケアを行っている。意思表示が困難な場合は家族から情報を得て本人本位にしている。またセンター方式シートを使用し、本人の家族から聞き取れるように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族から話を聞いたり、かつて家族で行っていたことに重点を置き、なるべく馴染みの生活を継続できるように努めている。		ホームにはいるまでの生活は過去の介護支援専門員の記録などを参考にし、家族からも聴き、より正確に把握していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	スタッフが食事フロアでの過ごし方、利用者同士の関係を把握し、バイタルチェックを通して一日の過ごし方を把握、記録している。また利用者に適したアクティビティや話題を提供し現状を総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族から希望を聞いてプランに反映できるようにしている。担当の職員がプランに対するモニタリングを行って管理者、職員とも話し合っ介護計画を介護支援専門員が作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の記録を基にした3～6ヶ月毎の定期的なモニタリングと計画見直しの実施をしている。また、身体状況の著しい変化などに合わせて随時計画の変更を行っている。		日々の記録の簡潔化、内容の充実を図っていきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を基にした定期的なモニタリングを行っている。		日々の記録の簡潔化、内容の充実を図っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	情報や要望に応じて対応できるようにグループホーム内外の情報交換に努めている。		ご家族のもとへの定期的な外泊が行えるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア団体の受入や要請、幼稚園児の慰問、消防による避難訓練の指導などに応じて協力を頂いている。		地域との交流を図り、地域資源を活かしていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	マッサージのサービスを利用している方がいる。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	主に介護保険更新時など地域包括支援センターと協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は事業所の協力医療機関を主としているが、他の医療機関を利用する場合は尊重し受診できるよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期的な往診時、必要時に医師への相談・指示をもらっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院、看護師又はホーム内の看護師から医療の視点から日々の健康管理などについて助言をもらっている。		職員の専門性、知識の向上を図りたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時はホーム内の様子や変化などを報告している。また、利用者の心身の状況の把握について病院関係者へ情報提供を求めている。		職員の専門性、知識の向上を図りたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	協力病院の今後の方針について繰り返し、話し合いの場を設けている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所での「できること」を最大限に生かせるように努め、医療面、栄養面など適切な支援が出来るよう話し合い変化に備えている。		職員の知識、技術向上を図り、重度化・終末期に向けたチーム支援の向上に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	現在事例はない。		別の居宅に住む場合、精神面に考慮し、十分な話し合いをしてご本人に納得して頂けるように努める。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりを尊重し声かけ・対応をするようにしている。個人情報やプライバシーを守り記録などは他者の実名を書かない。言葉使いに気をつける。訪室する場合必ずノックする。		個人情報保護の徹底に努めていく。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	聴く姿勢を大切にして職員自身がゆっくりした時間を持つように意識している。利用者の力に合わせ、選択肢を用意し、本人のやりたいことを聞き出来ることは実行している。言葉に出来ない人は注意深く反応を観察する。自立して頂けるよう支援する。		発語が少ない方の希望を叶えることができるようにしていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の日々の思いに耳を傾け、大切にしながら、その方のペースで暮らして頂いている。職員が少ない時間に外出希望があるときはできる限り早めに希望に添って支援するように努めている。		日々の暮らしに満足して頂けるように一人ひとりの気持ちを理解し、楽しみ癒しの場を作っていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月1回訪問美容室に依頼し利用者の希望を聞きカットやパーマをお願いしている。家族が訪問の際相談している。洋服選びも本人の意志を尊重している。外出の際は少しおしゃれをして変化を認め、笑顔に繋がる支援をしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と入居者とともに歓談しながら食事が楽しくなるよう本人の食べられないものなどを聞き、調理で工夫している。出来る利用者には一緒に調理を手伝ってもらっている。(準備・味見・片付け) 食事形態は個々に対応して刻み等用意している。		声かけやどのようにしたら一緒に行えるか等を工夫して機会を増やしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みの飲み物を聞いて、コーヒー、お茶、昆布茶、ジュース、お酒などその時々にあったものを提供している。おやつは職員と一緒にホットケーキ、桜餅、カップケーキなどを作る楽しみもしている。		本人の好みを聞き取り入れ日常生活の楽しみの一つになるよう支援していきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自力で排泄のできる方でもパターンを把握し、時間をみて声掛け誘導している。失禁を未然に防ぐよう気持ち良く生活して頂けるよう支援している。		声かけの仕方にも気をつけ、尊厳を傷つけないよう支援していく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	安全に配慮し、入居者の希望に応じて入浴して頂けるように支援している。足浴も行い清潔保持に努めている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安心して眠れるよう支援している。居室で午睡をして頂いたり、日中は運動・アクティビティを取り入れ夜間ぐっすり眠れるようにしている。夜間数回の巡視を行い、安眠を確認している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備、掃除、散歩、花の水やり、工作、縫い物など出来ることを伸ばしていけるように支援している。洗濯物を畳んだり、カーテンの開閉など役割が決まっている方には感謝の気持ちをお互いに伝え合い、張り合いを持って生活して頂いている。		何をしたいのか本人のしたいこと、出来ることを聞き出し、趣味や行きたい場所を聞き出したいことが出来る体制を整える。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理が困難な方は立て替えたり、家族に連絡して買って頂くようにしている。金銭管理の出来る方には家族と連携しながら買い物などで使えるようにして頂いている。		自己管理できない方も買い物など楽しみを感じられるよう支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は散歩をしている。地域の行事には積極的に参加している。散歩やブランチへの水やり、畑仕事、玄関先のベンチですごしたり、地域行事への参加により、季節を感じ五感を刺激し、ストレスの緩和に繋げている。		家族にも協力して頂き支援を充実させていきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事の中で花見、紅葉狩り、買い物ツアー、外食など車で外出している。		家族の方との外出も支援したい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族や友人からの電話をつないだり、希望に応じて入居者から電話をする支援をしている。手紙や年賀状、贈り物が届いたときは本人にお見せし居室に保管できるようにしている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限はなく家族や友人など都合の良い時間に来ていただき気兼ねなく話せる空間を利用して頂いている。ゆっくりされる方には食事やおやつも召し上がって頂いている。入居者が他入居者の孫とも親しくなり、第二の家族のような和んだ雰囲気もある。		今後もゆったりとすごしていただけるような雰囲気作り環境整備をしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングでも取り上げ、正しく勉強し、身体拘束しない意識徹底を図っている。見守りを強化し環境整備をして安全確保に努めている。身体拘束についての学習会を開いたり、職員同士での確認や必要時管理者からの指導をってもらうことにしている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関には鍵を掛けていない。利用者が自由に出入り出来るようにしているが、転倒事故など危険防止のため見守り、付き添いをしている。居室の鍵は本人の意志により掛けてもらい確認するようにしている。夜間は巡視し安全確認をしている。		居室の鍵を掛けないと不安になる方がおられるため、鍵を掛けなくても安心できるようにとりくみたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼間の訪室はロックし声かけするなどの配慮ができています。夜間も巡視し、時間毎様子を把握している。		利用者全体のプライバシーに配慮出来るようにしていきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の認知度やADLを考慮し、危険と判断されるものは職員で管理している。		危険と予測される物については数を把握し、使用時見守りを行って事故のないようにしていきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎月のミーティングでも取り上げ勉強をしている。個々の予測できるリスクはケアプランにて確認し見守り、介助を行い事故防止に努めている。複数の職員が薬のセット、与薬に関わり思いこみによる誤薬を予防し、飲み込むまで見守っている。		万が一、事故が起こってしまった場合も報告書を書き、再発防ぐための話し合いをしている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	毎月の会議の中で転倒や誤薬、誤嚥時の応急手当法を勉強している。定期的に普通救命講習会に参加している。		スタッフ全員が速やかに応急手当が出来るように今後も研修会や講習会に参加していきたい。また訓練も定期的に行い急変や事故発生に備えたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の消防署の協力の下、初期消火訓練・夜間を想定した避難訓練・地震を想定した避難訓練をしている。		定期的に避難訓練を行って避難が速やかに出来るよう身につけたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状況に応じて説明、相談しながら少しでも自由、自立に向けた取り組みをするように努めている。なるべく入居者本人の状況を家族と共有して共に支援をすすめていくようにつとめている。		スタッフの説明では不十分な場合があるのでその時は責任者に説明して頂く。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段から注意し気付きをもって介護に当たっており、介護記録に記録し、申し送りを行っている。変化や異変のあった時は速やかに管理者へ報告、指示を受け早期受診にしている。		小さな体調の変化も見逃さないよう、いつもの状態をしっかりと理解し、気がつけるようにしていく。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診受診などで処方箋が変わったことがあればその都度申し送りをして処方箋の確認を行っている。分包袋には日付、名前、何食後かが記入してあり、服薬は2名以上で確認し本人が飲み込むまで確認している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取の状況を把握し不足しないように心がけている。利用者にあわせ適度な運動を行うよう働きかけている。朝の申し送り時に排便回数を確認、便秘の際は腹部マッサージや便秘薬で調整している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアの声かけ実施をしている。うがいができない方についてはイソジンうがい薬・ガーゼなどで口腔清拭を行っている。義歯は就寝前に洗浄剤につけている。異常時歯科受診にて対応している。		忘れてしまう方、拒否がある方に対してどのように支援していくかを学んでいきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士がたてた献立にそって食事を作っており、個々の摂取量・残食量をチェック表に記入して情報共有して管理している。不足しがちなときは代用品などで補うようにしている。水分摂取の困難な方にはゼリー、アイスなどで工夫し対応している。		水分拒否のある方への支援に対し工夫を凝らし目標量に届くように支援していきたい。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを完備し、勉強会にて意識徹底を図り、予防に向け取り組んでいる。インフルエンザワクチン接種は全利用者・全職員施行。また、居間にはウイルス清浄機を9月設置した。ホーム入り口に消毒薬を準備し、食事の前・外出時はうがい、手洗いを徹底しペーパータオル・マスク使用している。職員はもとより来客者もうがい手洗いを願っている。1介助1手洗いを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>夜勤者により調理用具の消毒はされている。配送より届いた食材は朝・昼・夕食分に仕分けしすぐに冷蔵庫に入れ保管している。調理に際して手洗い・うがいは念入りに施行、清潔なエプロン等を使用している。調理器具、食器なども塩素系洗剤・食洗機を使用している。また、ペーパータオルの使用により衛生管理に努めている。</p>		<p>食材のチェック、調理をする人の清潔・衛生管理の充実、調理器具の衛生・消毒については今後とも充分にしていきたい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りに花壇などを充実させ、親しみのある雰囲気作りに努め、誰でも楽しめるようにしている。また、ベンチを設置し誰でも小休憩ができるようにしている。</p>		<p>利用者と共に今後とも季節に合わせた花壇作りを実施し、近隣の人たちが親しみやすく立ち寄れる工夫をしていきたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関はガラス面で外の様子が見渡せるようになっている。玄関には鍵を掛けず、利用者が自由に出入り出来るようにしている。廊下は広々として圧迫感がない。居間・台所・食堂のスペースは同空間の中にあるが、それぞれの空間から外の様子を見ることの出来る大きな窓で囲まれており季節感を感じることが出来る。日中、ほとんどの方が居間でソファーに座り談話をし、テレビをみて、読書をして過ごしている。どこで過ごしても温度調節がされており、寒暖の差はない。壁飾りに季節感を取り入れるようにしている。</p>		<p>入居者のストレスがたまらないよう、その時にやりたいこと等と傾聴・声かけしながらその場所を提供できるようにしたい。また、壁飾りなどで落ち着いた環境を作りたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>広いリビングの中で入居者が思い思いの場所でテレビを観られたり、本を読んだり、談話されたりと過ごされている。一人になりたい方は自室に戻られることが多い。</p>		<p>共有空間内に置いて、一人になれるスペースはない。共有空間をもっと利用して頂けるよう工夫したい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室内の家具は本人が使い慣れた物を家よりお持ち頂き、使用している。家具の配置など本人や家族が使いやすいように設置している。家族が写真や馴染みの物を来館時に持参され対応している。居室は明るくゆったりとしたスペースになっている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気を朝夕必ず行い、利用者の状況に応じて、また、気候の変動に応じてこまめに温度調節を行っている。室温調節は乾湿計をチェックし管理している。空調の設備、加湿器、空気清浄機など充実させて快適な空間を作っている。</p>		<p>換気、温度、湿度の調節は季節毎にこまめに対応して継続していく。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>全館バリアフリーにてリビング、廊下、階段など壁伝いに手すりがついている。トイレも手すりが付いており車いすの利用者も使いやすい広さがある。手すりを利用して運動をしたり、歩行器・ウォーキングマシンを利用したりして体力低下を予防している。</p>		<p>手すりの活用、運動器具を有効利用したい。</p>
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室やトイレ、浴室などにはわかりやすく表示したり、その入居者の目印などを設置し失敗しない工夫をしている。</p>		<p>入居者の状況を観察、確認しながら表示の工夫などして混乱のない状況を作っていきたい。</p>
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダは洗濯物干し・布団干しに利用。花壇やプランターを作ったり、野菜を栽培している。玄関前の駐車スペースは散歩時、休憩できるようベンチを設置している。また、イベントを(夏祭り)行ったり、避難訓練時、避難場所として利用している。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

明るく朗らかな職員が多く、入居者様との間に笑いが絶えません。認知の症状が進まれている方も増えつつありますが、管理者の下、職員が一丸となって介護に取り組み家庭的な雰囲気の中で過ごして頂けるよう努めております。また、行事も多く、入居者も楽しみにしています。夏祭り、クリスマス会は地域との交流の場になっています。アクティビティも豊富で刺し子やお手玉作り、貼り絵など楽しんでいます。